

## 「監憲録・浜松告稟録」

— 史料翻刻 — (一)

神 崎 直 美

## 解 題

「監憲録・浜松告稟録」は、東京都立大学（平成十七年四月より、首都大学東京に改組）附属図書館が所蔵する水野家文書の一史料である。水野家文書とは、幕府の天保改革で名高い老中水野忠邦家の文書群である。

ここに翻刻する「監憲録・浜松告稟録」は、『東京都立大学附属図書館水野家文書目録』には「監憲録・浜松告稟録一、二、三」と記載しており、その架号はB一—四である。<sup>(1)</sup> 当史料は、全四冊からなり、第一冊が「監憲録」、第二、三、四冊が「浜松告稟録」である。体裁は、全巻とも縦二六・七糎、横十九・四糎の冊子で、元の表紙の上に後補表紙が付されている。

「監憲録・浜松告稟録」とは、いかなる史料なのかということに

ついては、既に拙稿「水野忠邦の藩法集編纂事業とその藩法——『監憲録・浜松告稟録』を中心として——」で検討したので、<sup>(2)</sup> ここではごく簡単にふれるにとどめたい。

まず「監憲録・浜松告稟録」とは、次のような史料である。水野忠邦は、幕府老中を失脚後、浜松藩主を退任する前に、未だ若い後嗣忠精が藩主に就任した折、その治政の拠所とするために、自らの代に発令した藩法を藩法集として編纂する意志を抱く。これは、天保十四（一八四三）年十二月のことと思われる。そして編纂された法令集のうちの二種が、「監憲録」と「浜松告稟録」である。

「監憲録」と「浜松告稟録」は、その後、後嗣忠精治政下に、転封先の山形藩で藩法として引き続き用いられていたが、そのなかから江戸の藩邸で必要な部分のみを抜粋してまとめたものが、ここに翻刻する「監憲録・浜松告稟録」である。この編纂にあたってのは、勝手方の役人であり、安政二（一八五五）年九月に完成している。

なお、「監憲録・浜松告稟録」の元である「監憲録」と「浜松告稟録」は、現存していない。

したがって、「監憲録・浜松告稟録」は、失われてしまった「監憲録」と「浜松告稟録」の一端をうかがい知るものである。そして、その内容は、水野家治政下の浜松藩法——しかも幕府老中を勤めた忠邦が藩主時に発令したものであり、その後、藩主忠精治政下には山形藩法として用いられたものである。転封先の新たな領地・領民に対しても、そのまま用いた藩法とは如何なるものなのか、さらに山形藩の江戸藩邸に常備する必要があった藩法とは如何なるものなのかというのを、「監憲録・浜松告稟録」から知ることができる。

今日、水野家領有時代の浜松藩および山形藩の藩法に関する研究は、あまり進んでいない。譜代藩の藩法そのものについても、まだ解明されていない点が多い。とりわけ、転封した藩とその藩法のあり方については、検討を要する課題である。

そういった、藩法に関する様々な問題を検討するにあたり、「監憲録・浜松告稟録」は格好の素材である。しかしながら、これまでに全文が翻刻されることがなかった。そこで、ここに翻刻を試みる次第である。本稿ではまず、「監憲録・浜松告稟録」全四冊のうち、第一冊の「監憲録」を翻刻することとしたい。

## 註

- (1) 『東京都立大学附属図書館所蔵水野家文書目録』六〇頁。当該文書は、B藩政の(一)総記に分類されている。
- (2) 当論文は、森安彦編『地域社会の展開と幕藩制支配』(名著出版、平成十七年二月)の三六九―三九二頁に収載されている。

## 翻刻

### 〔凡例〕

- 一 漢字は原則として常用漢字を用いた。
- 一 変体仮名は原則として現行の字体に改めた。但し、当時常用された江(え)、而(て)、与(と)、者(は)、盤(は)、越(を)、茂(も)、而巳(のみ)などは、そのままとした。合字の合(より)、𠂔(しめ)は、そのまま表記した。
- 一 踊り字は、漢字については「々」、平仮名は「ゝ」、片仮名は「ヽ」、複数の文字の繰り返しはそのまま「くく」とした。
- 一 欠字は一字分を余白とし、平出は二字を余白として、いずれも同行に連記した。なお、欠字と平出が行のはじめとなった場合は、省略した。
- 一 翻刻者が補った部分は、本文の横に( )で記した。
- 一 原文が誤記と思われる場合には、横に(ママ)と記した。
- 一 朱筆は、その部分を「」で囲み、その横や下に(朱筆)と記した。
- 一 表紙は「」で囲み、その下に(表紙)と記した。
- 一 解読不能の字は、一字分を□で記した。
- 一 適宜、読点を付し、地名や人名、語句が連続している場合は、中黒点を付した。

「監憲録 (表紙)

浜松告稟録」

「自文政二年己卯二月  
至弘化二年乙巳二月

監憲録

」 (表紙)

吾

英烈公の時、文政三年庚辰より弘化二年乙巳に至るまで、自ら書して示し給ふ所の数箇条を、拜郷直胤・拜郷直昭に命じて編纂せしめ、直胤職を罷らるゝ後は、秋元吉富これに代り浄写して奉らむ、此書類を分ち、

公自ら名を下して監憲録を四冊とし、浜松告稟録を十冊と成され、常に坐右に置せらる、邑城の当番所にもまた一部を備へたりしか、嘉永四年辛亥の七月災に罷て亡ぬ、時に

今公の坐右の冊子危ふして災を免れしを幸ひに繕写して、再ひ備ふる事を得たり

公の封を襲きてより以来、隔歳ことに邑に在すの間、裁断留滞せん事を恐れて、此一部を都邸の当番所にも備へんと議す、茲におゐて公もまた許し給ふ、然れども邑城に行はれて都邸に施し難き箇条ハ省略し、緊要の件々を抜萃して共に四冊とし、永く政務の闕

如無らん事を欲すと云爾

安政二年乙卯九月

牧田巖右衛門  
実則(花押)  
岩崎彦右衛門  
勝興(花押)  
物集女兵馬  
清生(花押)

〔朱筆〕御規定書

目録

- 〔文政二卯年〕(朱筆) 御家中之方
- 一 町家江罷越酒食等致候者、又者売女等引合候者御咎之事
- 〔同年〕(朱筆) 御赦宥之事
- 〔同年〕(朱筆) 御家中出火ニ付而御咎之事
- 〔同年〕(朱筆) 御仕置仕形
- 〔同三辰年〕(朱筆) 吟味詰仕訳
- 〔同年〕(朱筆) 士分輕輩御咎之節、親類差扣伺御定之事
- 〔同五午年〕(朱筆) 御規格書
- 〔同六未年〕(朱筆) 士軽出奔者取扱之事
- 〔同七申年〕(朱筆) 一聴訟序次
- 〔同年〕(朱筆) 御家中江御咎申渡之句ノ之事
- 〔同九戌年〕(朱筆) 一肆赦律令

(4)

〔同十一子年〕(朱筆)  
一 御目付方隠密取調方差別之事

文政二年卯二月

家中之方

(朱筆)

〔○〕町家江罷越、酒食等致候者、又者売女等引合候者咎之事

一 町家江罷越無謂  
一 酒食致し、或ハ遊興体之儀、相催候者

閉門五十日

一 右再犯之者

当給三分一取揚  
閉門百日

一 右再々犯之者

蟄居十年

但、再々犯之上、何ヶ度ニ而茂同科十年宛可加

一 町家江罷越無謂  
一 止宿致候者

閉門百日

一 右再犯之者

当給三分一取揚  
閉門百五十日

一 右再々犯之者

蟄居十年

但、再々犯之上、何ヶ度ニ而茂同科十年宛可加

一 売女又者酌取女・飯盛女等  
一 酒之相手ニ致候もの

当給三分一取揚  
閉門百五十日

一 右再犯之者

蟄居十年

一 右再々犯之者

蟄居二十年

但、再々犯以上ハ何ヶ度ニ而茂同科

売女又者酌取女・飯盛女等、自宅江呼入、酒之相手ニ致候者

蟄居十年  
城内又者屋敷内  
之自宅ニ候者  
蟄居十五年

一 右再犯之者

蟄居二十年

一 右再々犯之者

蟄居三十年

但、再々犯以上者永暇

一 売女又者酌取女  
一 飯盛女等請出し候か  
或ハ相對ニ召遣候者

蟄居二十年

但、女ハ親元江可差返

一 右再犯之者

永之暇

〔○〕赦宥之事

一 士道相立候得共、不輕科ニ付、暇遣候類者二十年以上

一 親之科によつて暇又者追放等申付候者、七年以上

一 一旦親并諸親類共ハ勘当、又者久離を受け候後、年数相立、勘当

又者久離差免され候者、格段之一芸に達候ニ於てハ、勘当・久離

等差免され候年より七年以上

但、手跡并馬術ハ、一芸に不相立候事

一 一時之心得違にて出奔致し候後、格段之一芸に達候に於てハ、七

年以上

但、同断

一 十五歳以下、又者呼出無之内、親・兄等ニ隨致出奔候者、別ニ子

細も於不相聞ハ、五年以上

但、十五歳以上ニ而呼出無之内之者ニ而も、別ニ不埒之筋相聞

す候ハ、常之出奔者之通可取扱候

一無謂致出奔候女ハ、七年以上

一奸通等其外不屈之筋ニ而致出奔候女ハ、二十年以上

一一顧之不慎ニより蟄居、又者親・兄等之差戻候類、七年以上

一前科之通、一旦蟄居差戻等ニ申付候後、再応不埒有之、同様之咎

申候者、永蟄居・永差戻等ニ無之は、再応咎申付候年より、二十年以上

一慎隠居申付候類、二十年以上

但、差免候而茂不及再勤候

右之類ハ、可行赦免、尤、前書之年数相立候とも、其者之身上格

別堅固ニ無之に於てハ、不行赦宥候事

一其科之次第ハ顕さす候と茂、一体之始末、士道不相立、暇又者追

放等申付候類

一出奔致候者

但、赦宥之中之ヶ条ニ可見合

一永蟄居・永戻之類

一勘当、又者久離受居候者

但、赦宥之中之ヶ条ニ可見合

右之類、無赦五十年以上者可為赦宥事

一人ニ疵負ハセ、右疵ニ而片輪に致候者

一暇又者追放、或ハ勘当・久離等之者、一旦赦宥ニ相成候後、又候  
同様之仕義ニ相成候者

右之類ハ、永々難成赦宥候事

〔宋筆〕家中出火ニ付而之咎之事

一 二ノ丸住居向江火氣  
入候節之火元

三十日遠慮申付候

但、家老・年寄ハ差扣伺之上承置、三日過不及其儀旨申達

一類焼有之節之火元

五日遠慮

但、差扣伺之上承置、五日過不及其儀旨申達

一家老・年寄者差扣伺之上承置、翌朝不及其儀旨申達

一自宅計焼失之節

不及遠慮

但、差扣伺之上、即刻不及其儀旨申達

一家老・年寄も、右同断之事

一家中失火之義ハ恐体を驚、勤ハたさせ候、右を以遠慮之儀ニ付、

自火・附火之差別無之事

一屋鋪境等之出火ニ付、火元紛敷者 檢使差見定さすへき事

但、火元分り居候ハ、不及檢使、当人江委細可為認出事

文政二卯年

〔宋筆〕御仕置仕形

刑法

一等

一 獄門

一日引廻之上刑罪場ニ於て首を刎、同所江獄門ニ掛候、在方ハ悪事致候処江差遣候儀も有之、尤、科書之捨札建之、三日之内非人番ニ附置

但、田畑・家屋鋪・家財共闕所

一 火罪

引廻之上刑罪場ニ於て火罪申付候、在方ハ火をし附候所へ差遣候儀も有之、捨札番人右同断

但、闕所右同断

二等

一 斬罪

夜分刑罪場ニ於て、町奉行方組同心斬之檢使御目付役出席、町奉行申渡之、重罪ニ候とも引廻不附事

但、闕所右同断

一 死罪

刑罪場ニ於て首を刎、死骸取捨可申、罪之次第ニ寄り、引廻附候儀も有之

但、闕所右同断、重罪之者ハ死骸様者ニ申付候

一 下手人

牢内ニて首を刎、死骸取捨

但、様者ニ者不申付、闕所無之

三等

一 遠嶋

罪科之輕重により島之遠近有之、島無之所ハ永牢

但、田畑・家屋敷・家財共ニ闕所

一 入墨

牢内ニ於て二ノ腕に黥

但、黥之跡愈候而、出牢無宿者ハ、出牢之上御領分境ニ而

扨遣ス

四等

一 重追放

御構場所

御領知有之国并御隣国不残 武蔵・山城・摂津・甲斐・駿河・

上総・下総・東海道筋・木曾路筋・日光・同道中

但、田畑・家屋鋪闕所、家財ハ家内或ハ親類之者江為取遣、

然共利欲ニ拘り候類、或ハ年貢未進等有之候ハ、家財と

も闕所

右、御構場所書付相渡、御領分境ニ而放遣、尤、他国ニ於て

悪事仕出し候者者、其国共書加候事

一 町人・百姓御構場所

御領分境より四方江拾里宛 悪事仕出し候国并江戸

但、田畑・屋鋪闕所、其外構場所書付相渡、放遣方等右同

断

一 田畑・屋敷無之者ハ、家并家財取上、田畑・家屋鋪・家財茂無之者ハ、闕所之沙汰不及事

但、闕所、其外とも中追放之通り

一晒

刑罪場ニ於て三日晒、在方ハ惡事いたし候村口ニ晒

中追放之通り

一奴

望之者有之候得者渡遣ス、望之者無之内者、牢内ニ差置

但、田地闕所、其外中追放之通り

一片鬢剃落

牢内ニ於て、片鬢剃落、放遣ス

一 田地無之者ハ、畑地取上、田畑とも無之者ハ、家屋敷取上、家屋敷無之者ハ、家財取上、田畑・家屋敷・家財も無之者ハ、闕所之沙汰不及事

五等

一中追放

御領知有之国并御隣国不残 武蔵・山城・摂津・東海道筋・木曾路筋・日光道中

一 拾里四方追放

御領分境ハ四方へ拾里宛

但、田畑闕所、然とも利欲ニ拘り候類、或ハ年貢未進等有之候ハ、家屋鋪・家財共闕所、其外都而重追放之通り

無之 八等

一 町人・百姓御構場所

重追放之通り

一 御領分払

御領分江不立入様申渡払遣

但、田畑闕所、其外重追放之通り

一 田畑無之者ハ、家屋鋪取上、家屋敷無之者ハ家財取上、田畑・家屋敷・家財も無之者ハ、闕所之沙汰不及事

一 改易

大小渡宿江相埒、夫令立退申候

六等

一 輕追放

御領分境より四方へ拾里宛 江戸・京・大阪・東海道筋

一 追院

住居之寺江不相埒、申渡候所令直ニ払遣ス

但、家屋鋪取上、家財無構

一本寺触頭江引渡  
但、着用三衣之外、我物闕所

本寺触頭江罪之次第を申聞、引渡遣し、寺法之通可取計旨申渡  
但、闕所右同所

一所私  
九等

町方八居町合三町隔住居不苦、在方ハ佐村江入、百姓申付候

一退院

住居之寺を可退旨申渡

但、我物不及闕所為取遣ス

十等

一敲

数五拾敲  
重キハ百敲

窄屋門前ニテ科人之肩・背・尻を掛ケ、背骨を除、不絶入様組同心ニ可為敲、分境目検使組小頭出席

但、町人は其家主・名主、在方ハ名主・組頭呼寄、敲候を  
見せ候而引渡遣ス、無宿者ハ敲候後、領分境ニ而払遣ス

一手鎖

三十日 五十日  
百日

其掛り奉行ニ而手鎖掛ケ、小頭封印付ケ、五日目切ニ封印改、  
百日手鎖之分ハ、隔日封印改心改候度ニ、封印仕通

但、町役人・村役人江預ケ候者、其改人并差添人附添同道、

於奉行所小頭并手代立合、改宿預ニ候者、宿屋并差添人附  
添改方同断

一徒罪

三十日 五十日  
百日

日数中其所江預ケ置、日々呼出し御普請所人足ニ可遣、尤、  
病氣等ハ日送之事

但、里数隔り候村方者、其村之普請所へ可遣

尤も、無之候者御城下へ呼出置、日々遣ひ日数半減ニ申  
付

一一宗構

御領分中之其宗旨を構

一一派構

御領分中、其一派を構、同宗ニても外之派ニ成候得ハ、無構  
十一等

一過料

壹貫文 三貫文  
五貫文

重キハ七貫文・拾貫文、又ハ貳拾兩・三拾兩、其者之身上ニ  
順ひ、或ハ村高ニ応し員数相定、三日之内可為納候、尤、至  
而輕キ身上ニ而過料難差出者ハ手鎖、尤、一日百文之当りニ而  
可申付

一田畑持高之内、半分或ハ三分二・三分一取上候者者

持高三分一可取上分過料壹反歩ニ付 五貫文宛

同半分可取上分、同壹反歩ニ付 三貫文宛



同三分一可取上分、同壹反歩ニ付

貳貫文宛

一遠慮

一戸ノ

門戸を貫を以討メ、尤、村方ハ戸ノ不申付、輕儀ハ叱り、又ハ過料、然と茂町方之分も過料ニ而可濟ハ、過料たるへし、

村中ニても侍体之者ハ、戸ノにも可申付事

門を立、くゝりハ引寄置、夜中不目立様ニ通路ハ不苦

但、右同断

十三等

一急度叱り

一叱り

一閉門

門を閉、窓塞討メに不及

以上三十五

但、病氣之節、夜中医師招候義、并自火不及申、近所ノ出

一自本罪一等重キ御仕置ハ、可為遠嶋以下事

火之節、屋敷内火防候義不苦、惣而火事之節、屋敷あやう

重追放ハ

き躰ニ候て立退、其段可届出

中追放ハ

一押込

他出不為仕、戸を建寄置

拾里四方追放ハ

但、右同断

御領分払ハ

一役儀取放

其身一生役儀相勤不申候

但、都而右之輕重ニ可心得事

十二等

一自本罪一等輕キ御仕置之事

一門前払

一旦繩掛、奉行門前ノ払遣ス、直住所へ立歸候事

死罪ハ

但、無宿者ハ、門前払不致事

遠島ハ

一逼塞

門を立、夜中くゝりより不目立様ニ、通路ハ不苦

重追放ハ

但、病氣出火等之節ハ、押込と同断

但、右同断

一二重御仕置之事

入墨又ハ敲候上

重追放

重追放

中追放

輕追放

十里四方追放

御領分払

遠島

重追放

中追放

輕追放

役儀取上

過料之上

敲之上

入墨之上

一盲人御仕置

遠島・追放等ニ可成科ハ、親類江預居、村之外猥致徘徊間敷旨可申付

一座頭御仕置

御領内之触頭江科之次第申聞、座法ニ可行旨申付、引渡遣ス

一非人御仕置

敲以上之罪科ニ候て、科之次第ニ依り何程之仕置当りを以可申付旨申渡、非人頭江相渡遣ス、敲以下之科ニ候て科之次第申渡、相当之仕置ニ可致旨申付、非人頭江相渡ス

前書之通、御仕置仕形相定候事

文政二己卯年

文政三年辰四月

○吟味詰口之事

答之分

一不念迄ニ付

急度叱り

過料

戸鎖

手鎖

追放

追放所払

一不束ニ付

一不埒ニ付

一不埒ニ付

一不埒ニ付

一不届ニ付

一不届ニ付

一不届ニ付

一不届ニ付

一不届ニ付

一不届ニ付

一不届至極ニ付

急度叱り

急度叱り

過料或盤手鎖

逼塞或ハ押込

仕置之分

重敲 敲

江戸払 所払

重追放 中追放 輕追放

奉公構暇

遠島

死罪或ハ下手人

獄門

一敲・所払以上者不届と吟味詰、御仕置附与可認候

一逼塞・押込・過料・急度叱り等、不埒もの吟味詰ニ而御答附と可認候

候

但、急度叱者不束、又者不念之旨、其始末ニ寄り吟味詰有之

候、尤、御答附江者

逼塞・押込・過料者

何々と御答附仕候と可認候

急度叱り

何々と申上候と可認候

一御領分弘以下之一件ハ、吟味伺書計差出、口書者添申間鋪候、乍然御他領者引合候敷、又者人組候出入者口書も相添可差出候、無宿者吟味伺書ハ、是又御書添可申候

〔朱筆〕士輕御咎之節、親類差扣伺之事

一永之御暇被下候節

差扣被 仰付  
三十日過御免

但、父死後兄之手許罷在候得者、其兄江如父差扣被 仰付

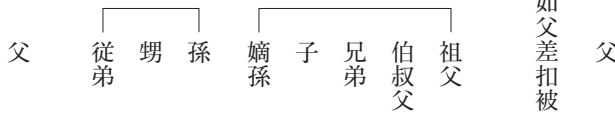
尤之旨  
十五日過不及其儀

承置  
翌日不及其儀

一蟄居御差戻之節

尤之旨  
廿日過不及其儀

但、父死後兄前条同断



承置  
十日過不及其儀

不及其儀

一役儀并御宛飼之内、御取揚・閉門・差扣・押込等之節

承置  
十日過不及其儀

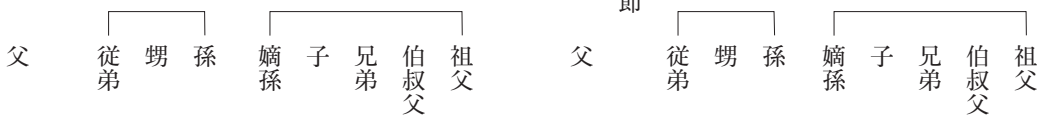
但、父死後兄前条同断

承置  
五日過不及其儀

不及其儀

一当人御叱り等三而差扣伺、尤之節

承置



(12)

五日過不及其儀

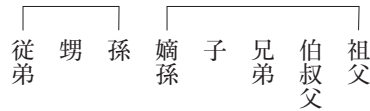
但、父死後兄前条同断

不及其儀

不及伺

〔朱筆〕御規格書文政五閏午年

此度小普請之者申付候ニ付而ハ、夫々規格相立テ、諸役人且番方之者共取扱茂記置、并寄合之名目者、常々有之与申ニも無之候得共、是又規格定置左之通



諸役人

- 一 諸役人隱居家督之節、悻十七歲以上ニ候ハ、直番入申付候事
- 一 右同断、十七歲以下ニ而未召出分者、小普請入申付候事
- 一 老年又者病氣等ニ而廉立候勤難相成、隱居不相願、役儀計願候者、寄合人可申付事
- 一 諸役人之隱居者、隱居免・隱居扶持共是迄之通り下置候事
- 一 諸役人之悻者、十七歲以上行狀謹慎之輩ハ召出、相当之勤向申付

候事

一 諸役人之悻、幼年ニ而家督相統等いたし候輩ハ、十八歲以上格別行狀謹慎、文武出精之輩者、番入可申付事

一 諸役とも二十年以上閉門・差扣等、以上之咎筋無之相勤候者者、持高ニ応し加増可下置事

〔朱筆〕 但、精勤之輩者、持高ニ不拘加増可有之事

〔朱筆〕 一 役二十年以上ニ可致哉  
公儀一役二十年以上者  
永々 御目見以上ニ被仰付候事

一 右ニ付、旧知下置儀有之間鋪事  
右之外、是迄之通ニ候事

番方之者

- 一 一番方之輩、隱居家督之節、小普請可申付事
- 一 右同断、悻兼而召出居候分者、家督之節たりと茂、小普請者不申付候事
- 一 老年又者病氣等ニ而廉立候勤難相成、隱居不相願、番差免計願候者、小普請入可申付事
- 一 一番方者、何代統候とも、減給不申付事
- 一 一番方之悻者、格別行狀謹慎之上、文学・武術ニ達し候輩者、召出相应之勤向可申付事
- 一 但、文学者講義弁書等茂相应出来候程
- 一 一 武術者、刀・槍・弓・鍔之内、何ニ而茂皆伝相濟候事、柔

術・算術・軍学、是又、右<sup>二</sup>準、尤、名実一致<sup>二</sup>無之<sup>一</sup>而者、  
申立不相成候事

附、手跡・馬術者、銘々必定可嗜事故、一芸<sup>二</sup>ハ不相成  
候事

一番方者、何事相勤候とも、加増等之儀無之、旧知下置儀も無之候  
事

右之外、是迄之通候事

寄合

一寄合之輩者、隠居家督之節、小普請申付候事

一隠居免者、持高<sup>二</sup>心し下置、隠居扶持者不遣候事

但、悴勤居候者者、悴取来候属扶持之方隠居<sup>江</sup>下置候事

一寄合之悴者、不召出候事、尤、部屋住中各別行状謹慎、文学・武

術<sup>二</sup>達し候輩者、家督後無程番入可申付事

但、文学者、講義・弁書等相応出来致し候程

一武術者、刀・槍・弓・鍔之内、何<sup>二</sup>而茂皆伝相济候事、柔

術・算術・軍学茂、右<sup>二</sup>準可申候、尤、名実一致<sup>二</sup>無之<sup>一</sup>而者

申立<sup>二</sup>不相成候事

附、手跡・馬術者、銘々必定可嗜事故、一芸と申<sup>二</sup>者不

相成候事

一寄合之悴、部屋住中格下ケ勤願候者、相応<sup>二</sup>引下ケ可召仕候、尤、

家督之節者、小普請入<sup>二</sup>相成候事、隠居扶持等之儀<sup>茂</sup>無之候事

一寄合者、年始・五節句登 城可有之事

一慶事之節、家老共・年寄共宅廻勤可致事

一月次講釈聴聞<sup>二</sup>可罷出事

一変儀之節者、城<sup>江</sup>可詰事

小普請

一 小普請之輩者、行状格別<sup>二</sup>謹慎之上、文学・武術<sup>二</sup>達し候輩者、  
番入又者其器<sup>二</sup>よつて相応之役儀可申付事

但、文学者講義・弁書等出来致し候程

一 武術者、刀・槍・弓・鍔之内、何<sup>二</sup>而茂皆伝相济候事、柔

術・算術・軍学等茂、同様<sup>二</sup>候、尤、何れも名実一致<sup>二</sup>無

之<sup>一</sup>而者、申立<sup>二</sup>者不相成候事

附、手跡・馬術者、銘々必定可相嗜事故、一芸与申<sup>二</sup>者

不相成候事

一 小普請<sup>二</sup>代相統候得者、代替之節、持高之内滅可下置事

「二代統・三代目代替之節、滅可然哉」(朱筆)

一 知行百五十石以上之小普請者、先規之通隠居免下置候事、其外之  
分隠居扶持<sup>ハ</sup>不遣候事

一 右同高以下番方相勤居候処、病氣又者老衰<sup>二</sup>及ひ廉立候勤難相成

付、願之上、小普請入申付候輩隠居之節、兼而悴取来属扶持之分

隠居<sup>江</sup>可下置事

但、番方勤中悴召出無之輩者、扶持方不遣候事

一 小普請之悴者不召出候事、部屋住中各別行状正鋪、文学<sup>二</sup>達し候

者ハ、器量次第、家督後無程番人申付候事

但、芸術等ハ、初ケ条之通ニ候事

一部屋住中、為規定心得格下ケ勤相願候者、相応可召仕候、尤、家督之節者、小普請可申付候事、且、隱居江扶持方等之儀者無之事

一願之上、小普請ニ相成候者之悴、兼而勤居候者家督之節、小普請入者不申付候事

一 小普請席之儀者、六拾石十二人扶持以上者給人末席、五拾石取者中小姓末席、以下是ニ準候事

一 小普請之輩、十五歳以上者願出次第、目見可申付、在府留守中等者、小普請並之通、礼等相勤度旨願出候者可申付事

但、部屋住者、不及此儀事

一 隱居家督・跡目・跡式等、前々之通於城可申付、家督跡目之礼并初而目見之節とも、進物は迄之通之事

一 小普請之輩、年頭并五節句礼之儀者、給人以上ニ而二人無足ニ而式人、為惣代登城可有之、尤、以順番可相勤候、其外者年頭計家老宅ニおゐて、逢日之節可相越事

但、上席之逢日ニ不參之輩ハ、次席之逢日ニ可相越候、右両

日共病気差合等ニ而難罷出面々ハ、流ニ相成候、尤、此節十  
五才以上之悴同道、不苦候事

一 慶事等之節、家老・年寄宅を廻勤之儀、給人以上ニ而二人無足  
ニ而、二人惣代として可相廻候、尤、以順番可相勤候事

一 変儀之節者、可有登城事

一 親類之儀ニ付、老共へ礼状等不及差越候事

〔宋筆〕士輕出奔者取扱之事

一出奔者ハ、士輕之差別無之事

一 当人門出致し候処、不罷帰段、身寄之者より内分相届ケ、且、心当り之箇所尋度旨申出候ハ、三日之間ハ令宥免、身寄之者江可為尋、三日之内尋当り召連戻候ハ、当人江門出入不止之趣ニ而、咎可申付事

但、身寄之者無之而、仲ケ間合可届出尋之儀願出候ハ、

本文之通三日之間令宥免、仲ケ間江可為尋召連戻候ハ、

咎方同断

一 仲ケ間無之者ハ、頭支配合内分可届出、尋之儀相願候とも、

頭支配江尋之儀不申付候間、直出奔之旨可為届

一 右三日過候而茂、身寄之者共方ニ而不尋出候ハ、出奔之旨為届、家財闕所申付、最初届出候身寄之者か仲ケ間江、三十日限り尋申付、猶又不見当段申出候ハ、又三十日限り之尋申付、都而出奔致し候月より六ヶ月之間ハ何ケ度ニ而茂、三十日限り尋申付、其内召連戻候ハ、直郡奉行方追々為差出、江戸ハ目付方江可差出候、又ハ六ヶ月過不見当段届出候ハ、其者江永尋可申付事

但、三日過、身寄之者より内々出奔之旨届出候処、猶又今暫

心当り之ケ所尋度旨相願候ハ、五日以下之日数勝手次第  
可為尋、其上ニも不尋出候節ハ、本文之可申付事

一 本文出奔之趣届出候ハ、六ヶ月之間ハ不設心付相尋、住所分り候ハ、可申出旨、目付方江申達、住所分り候旨申出候ハ、郡奉行ニ而召捕、江戸ハ直ニ目付方ニ而召捕

一 本文永尋申付候後、何ヶ年相立候とも、住所相分り見定候上者、其段先一応可為伺、其節当人儀、領分近き処ニ居候

一 又者江戸屋鋪近き所ニ居候か、都而上を不恐様子ニ而、頭ニ徘徊等いたし候趣ニ候ハ、早々召連戻り、其筋江可差出事

一 六ヶ月以上ニ相成、永尋中々相成候ハ、目付方ニ而尋ニ不及候、乍然前文之趣ニ相聞へ候ハ、其段先一応伺之上、前本文之手続ニ而召捕らせ可申事

一 出奔者、身寄之者か仲ヶ間より差出しニ致し候歟、又ハ郡奉行方ニ而召捕候ハ、即刻目付立合ニ而吟味いたし候之様可申付候、尤、士軽之差別なく、浪人之扱ニ可致候、吟味語り口上書爪印相濟、入牢申付、吟味書出来次第、品々為伺仕置可申付事、其節目付立合可為致、尤、最初吟味取掛り候節、吟味中者詞を改メ相尋候旨、目付より可為申渡候事

但、江戸ハ即則目付方ニ而兩人立合、吟味中伺を改メ相尋候旨申渡置、夫吟味取扱本文同事口上書爪印相濟、長屋江入置、足輕番人附置、吟味書差出次第仕置可申付、其節も立合之事

一 尋中身寄之者召連戻り候とも、在所ニ候ハ、城外江戸ハ

門外江差置、其段可為届、決而自宅等へ召連入候儀ハ不相成候事、仲ヶ間共ニ而も同断、兩地とも差図次第、早々役筋へ可為差出候

仕置之事

一 遊興ニ耽り候哉、或ハ貧困ニ迫り出奔之旨申立候ハ、

一 構場所

浜松十里四方 江戸十里四方

東海道中 木曾道中

右、構場所書付、当人江為致懷中可為追放

身寄之者 仲ヶ間 答之事

一 出奔届致候後五日以下日数尋候ハ、右尋相濟候節、又ハ出奔届切りニ而尋茂不相願候ハ、其節左之通可申付事

一 父又者父無之兄之手許ニ同居候ハ、其兄并伯父・兄弟・嫡孫・甥・従弟

右差扣候ハ、老不及差扣、追而可伺旨可申達

但、預り之物奉行・者頭并同居仲ヶ間、重立候者ハ、此節差扣、伺ニ不及、追而落着之節可伺旨可申達

一 六ヶ月以上ニ相成候而茂不尋出、永尋申付候節歟、又者六ヶ月内召連帰り仕置相濟候節者、答左之通

大小取上  
武家奉公構  
追放

一父 差扣申付三十日  
過差免

但、父無之兄之手許<sup>二</sup>同居候ハ、出奔之節ハ、兄儀差扣如父

一伯父・兄・弟 差扣伺尤之旨申聞  
十五日過不及其儀旨申達

一孫・甥 差扣伺承置、翌日  
不及旨申達

一同居之仲ケ間重立候者 差扣伺承置  
三日過差免

一預り之物奉行 差扣伺不及  
其儀旨申達

一永尋相成候後、役筋<sup>二</sup>而召捕候歟、身寄或ハ仲ケ間より差出<sup>二</sup>相成、吟味之上仕置申付候節、身寄之者咎左之通

一父 差扣伺不及其  
儀旨申達

但、父無之兄之手許<sup>二</sup>同居<sup>二</sup>候ハ、兄儀如父

一右父之外、諸親類、又ハ同居之仲ケ間共差扣伺<sup>二</sup>不及候事

一出奔人、尋左之類<sup>江者</sup>申間鋪事

一主人を 家来<sup>二</sup>

一親を 子<sup>二</sup>

一兄を 弟<sup>二</sup>

一伯父を 甥<sup>二</sup>

一師匠を 弟子<sup>二</sup>

一頭を 組<sup>二</sup>

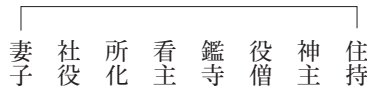
一出奔人盜致候而か、密通事か、人<sup>二</sup>疵付候か、人を殺候而逃去候之類ハ、前書之外別段仕置有之、身寄其外<sup>江</sup>之咎方、別段之事

文政七甲年

〔朱筆〕聽訟序次

平生之願事、又者褒美申渡、其外平生之申渡事とも

一御朱印地<sup>二</sup>無之 寺社



此神主・社役共、吉田・白川両家之内<sup>ハ</sup>許状請候分并許状無之候とも、配下<sup>二</sup>供僧有之分、尤、妻子<sup>者</sup>夫之身分<sup>二</sup>准し可取扱事

山伏之事



是者、本山派者聖護院宮、当山派者<sup>二</sup>三宝院配下<sup>二</sup>而、交衆与唱、修驗之列<sup>二</sup>入、三衣をも着し候分、尤、妻子<sup>ハ</sup>夫之身分<sup>二</sup>准



し可取扱事

一 普化宗

住持  
看主

是ハ有髮<sup>二</sup>而も、一月寺・鈴法寺・兩役寺役僧、其外役僧<sup>二</sup>無之候とも坊主之分

一座頭

檢校  
勾当

一

神事舞太夫

一

陰陽師

是者、組頭、又者觸頭之分、尤、土御門家配下也

一 熨斗目着用又者  
一目見申付候

在町  
醫師

右上掾

一 御朱印有無不拘  
一 許狀無之

神主  
社役  
妻子

木綿手纏之許狀ハ、不取用候間、許狀無之方江附申候

有髮之分

一 普化宗一月寺・鈴法寺之  
末寺又者配下

役僧  
所化  
盲僧

是者、多分青蓮院宮配下<sup>二</sup>而、武家并陪臣之悴<sup>二</sup>限候旨

一 在町人別、又ハ人別外  
<sup>二</sup>而茂惣録配下之分

在名  
座頭

但、在名ハ四度之上衆引分同晴迄之官也

(一)

是者万歳職<sup>二</sup>而取扱之節

万歳

一

但、神子・梓女・守子とも

巫女

一

但、職札無之ハ、砂利可差出候

土御門家配下  
売卜

一

是者、身分糺之上、前々武家方相勤、其後流浪之分

浪人

一 外御直参分出入  
一 扶持貫ひ居候

在町  
醫師

但、前々武家方相勤、其後醫師<sup>二</sup>成候分とも

一 一目見、たし、又ハ熨斗目  
一 差免候用達

町人  
百姓

右浪人台

一人別<sup>二</sup>入り候

在町

一 領分<sup>二</sup>之者<sup>二</sup>而在町  
一 醫師方<sup>二</sup>同居之

醫師  
弟師

衆分并  
無宮之  
座頭

一 在町人別、又者人別外  
<sup>二</sup>而茂惣録配下之分

一 盲女  
一 盲人

是者、盲人ニ而檢校之支配ニ無之、在町住居之分也

但、家中之内、父兄之厄介ニ而同居いたし候分ハ、名目ニ

不拘、父兄之身分ニ応し、勘弁之上可取扱事

一 用達、又者用達ニ無之共  
苗字、又者帶刀差免候もの

但、無刀ニ而許席江出ス

町人  
百姓

町人  
百姓

一 神職等兼帶いたし居候者か、  
職掌ニ不拘身分ニ付候節之

穢多  
非人

此外茶筥・煙亡、方言ニ而皮多杯与唱候もの

無宿者  
又ハ  
無宿浪人

右砂利

右、文政七甲申年五月相定

吟味ニ付呼出候節

一 家中  
右別間ニ而吟味

士分并直礼之分

一 長屋入之分  
不残

一 平日上掾之分  
右上掾  
不残

一 家中  
直礼以下

但、揚り屋入とも

一 平日浪人台之分  
不残

一 揚り屋入之分  
右浪人台

一 家中  
新組格以下之分

但、入牢之分共

一 平日砂利之分  
右砂利  
不残

右、文政七甲申年五月相定

吟味仕方

一 家中直礼以上之分者、座鋪ニ而吟味いたし、吟味中者親類江預ケ、

輕きハ宅番等可申付、不埒之筋も候ハ、長屋入申付、評席上掾

ニ而吟味之事

但、無刀ニ而差出候事

一 直礼以下者評席浪人台ニ而吟味、宅番又者預等如前不埒之趣候ハ

、揚り屋入可申付候事

但、同断

一 新組格以下ハ、平日之通り無相替儀、手鎖等も可申付候

一家中之分、引合而已<sup>二</sup>而不埒之筋<sup>茂</sup>無之分ハ、宅番も不及候

但、同断

一平日上掾・浪人台之分者、不埒之筋有之候ハ、揚り屋人申付候、手鎖者不申付候、砂利之分ハ、何<sup>茂</sup>人牢之事

但、同断

一出席之分も、無刀<sup>三</sup>而差出候事

右之通、可相心得候

申五月

右、文政七甲申年五月相定

不届之儀

蟄居暇等ハ

不届至極  
右之通、相定可申事

〔朱筆〕  
〔〇〕肆赦律令

目次

一肆赦義略

一肆赦下令程式

一大肆正期条定

一中肆正期条定

一小肆正期条定

一藩中寛簿式例

一市在寛簿式

一令書式

一司郡告辞式

一藩中大肆罪銘

一藩中中肆罪銘

一藩中不期罪銘

一藩中不可罪銘

一市在大肆罪銘

一市在中肆罪銘

叱り・急度叱りハ

不調法之儀

不行届之儀

不恙之儀

差扣ハ

不調法至極

不行届之至

不恙之至

不埒之儀

閉門ハ

不埒至極

- 一市在小肆罪銘
- 一市在不期罪銘
- 一市在不可罪銘
- 右、通計十八条

## 肆赦律令

## 肆赦義略

一赦宥に大肆・中肆・小肆あり、大肆ハ大赦にて、五年以上往断之者、罪科之輕重与年数之多少与に依て、律に從て可赦宥、中肆ハ当座之赦なり、当時、械繫又ハ督責中之者、輕罪に至而滿て律に從て可赦宥、小肆ハ輕罪之赦にて、当時械繫、又ハ督責中之者之内、輕罪之者而已律に從て可赦宥事

一藩中之者ハ、大肆并 靈神神忌 歷世頭考法会中肆之節、年數滿たる分計律に從て可赦宥、此外之中肆・小肆ニ者、赦宥無之事一肆赦ハ、正期之外、平常不可行之、尤、不期之分、出家願出候者計、不拘正期可赦宥事

一赦宥行ふ時ハ、大肆・中肆・小肆ともに、辜者之名前并科書とも先後順次を正し認候、帳冊仕立等連を寛簿与唱へ、大肆に盤五年以上、往断之者寛簿江年曆を認め、其年まで何ヶ年与申義朱書ニいたし、尤、年数之古を先に認め、新き盤後に可認事

但、藩中之寛簿者申渡之趣のミ認候而ハ、内実之訳難分候間、其分ハ訳書可認事

一中肆之時、藩中之分ハ、五年以上往断之者のミ赦宥有之、当座之赦宥無之候、郡奉行掛り之分ハ、当時械繫并督責中之者のみに限り、往断之者赦宥ハ無之候、依之大肆・中肆とも、藩中寛簿一通り郡奉行掛り、寛簿一通りと夫々可認出事

一靈神神忌并 歷世考妣法会之中肆に往断之者の縁類、又者当院等ニ寄て赦宥願出候者、藩中与郡方懸りと差別いたし、其願書之趣并内実之訳、郡方ハ科書之旨、夫々之中肆寛簿之末江認、加年數、訳書・科書等、前件大肆寛簿之書法ニ倣ひ、且、但書ニ何方ハ願出候旨可認加事

但、本文縁類、又者寺院等ニ寄て赦宥願出候事盤  
神忌并 歷世考妣法会之節に限る、其外之事ニ付願出候とも、寛簿ニも不認加無取上事

一頭妣法会之節、藩中之者願出候とも、如前件不取上律也  
以下、倣之可見合事

一寛簿出来之後律に当比し、議評を尽し肆赦すへきもの、年數未滿之者、永世不可寛舎もの、夫々其訳朱書ニ可致事

但、寛簿ハ度々之分蔵置て、赦宥行ふ時毎に可見合事  
一前件寛簿之議定て永世難成寛舎旨、議定之分其後より之赦期ニ者不可認出事

一同断年數未滿之分、其時赦宥無之与いへとも、其後之大肆・中肆之時、年數滿來候ハは、其節赦あるへし、尤、藩中ハ、大肆・中肆之期、郡方懸りハ大肆之郡計に限り、此外肆赦之時ハ、年數滿

来るとも不可赦宥、元々寛薄江書載も不可致候、乍然如前件 神忌并 歴世法会之中肆に願出候分計、其時年数満来る者、律に従て可赦宥事

肆赦下令程式

一 藩中之者、大肆・中肆之時、藩中に居住之者盤、直呼出申渡す、他郷に在住之者盤、縁類江申達、当人呼寄申渡す、縁類なき者住所分り有之者、其当人呼寄申渡す、若住所も不相分者ハ、追而分り次第申渡へき事

但、申渡方ハ、先年不届、又ハ不埒之筋有之、何之仕置、又ハ咎申付候処、今度何之儀ニ付、赦宥申付候旨申渡す

一 神忌并 歴世顕考法会之中肆に願出候藩中之分、呼出方前件同事尤、藩中居住之者ハ願出事も無之、小肆にハ不行候事故、他郷流浪之者而已ニ而候

但、同前

一 在町之者、大肆之節郡方ニ而其所之役人江申達、当人呼出申渡す、他郷之者にても、元之所役人江申達、当人呼出申渡、住所も不分者盤、此度赦宥申付候、追而住所分り次第可届出旨、元之所役人江申渡 請証文可申付事

但、同前

一 赦宥申渡、当人者不及請証文事

一 靈神神忌 歴世考妣法会之節、在町住居之分并他郷居在之者与も

願出、赦宥に相成候節、前件同様之事

一 寺社之分、赦宥并願出候節とも、前件同様触頭、又者所役人を以呼出可申事

一 座頭并檢校支配之盲人者、死罪之外ハ仕置之当り申聞、座法之通可取計旨申渡、触頭江引渡遣候者故、肆赦之節、触頭江赦宥之義申渡、請証文取之、尤、督責中之者盤、奉行所にて直可申渡事

但、神忌并 歴世法会等之節、赦宥願出候節も、本文之趣にて可取計事

一 盲僧・盲女并檢校支配に無之盲人者、何も奉行所ニ而直申付候者故、常人之通可相心得事

一 穢多・非人之義、死罪以上并遠島之外盤、仕置当り申聞、穢多・非人頭江引渡候者故、肆赦之節者、其頭江赦宥之儀申渡、請証文可取之、督責中之者ハ、奉行所ニ而直可申渡事

但、穢多・非人者 願出候而之肆赦者無之事

一 都而赦宥申渡候節者、其者之親類・身寄之者呼出、申渡後引渡可申候、在町も同断、元之所役人をも呼出置、申渡相済候後引渡可申、親類・身寄も無之者ハ、元之所役人呼出置、申渡相済候後金壹両、極老之者ハ金貳両差遣、引渡可申事

但、本文手当金者、往断之赦宥に限り候而、当座之赦宥ニハ無之事

一 赦宥可申付者之内、死失之分藩中ハ其縁類之者へ、赦宥之儀可申渡、在町并社人等も同断、身寄之者も無之分ハ、元之所役人江可

申渡、寺院并座頭・檢校支配之盲人等盤、夫々之触頭江可申達、穢多・非人盤、其頭々江可申渡事

一在町其外郡方懸り赦宥申渡相濟候ハ、其段届書郡奉行より可差出事

見合事

小肆正期条目

一世子始謁 一庶子義家江移徒 一庶女婚姻

右三箇条

右之節、可行小肆事

大肆正期条目

一致仕繼立 一元服 一任官

一状元 一昇進 一世子誕生

一世子告嫡 一義子引移 一世子任官

一世子元服 一山川萬松寺參詣

右、十一箇条

右之節、可行大肆事

中肆正期条目

一靈神神忌 一靈神正遷宮 一歴世考妣法会

一内相入輿 一内相婚姻 一新婦入輿

一新婦婚姻

右、七箇条

右之節、可行中肆事

一靈神神忌 一歴世考妣法会

右者、中肆之外、縁類、又者寺院等江依り赦宥願出候者有之ハ、

右願書之趣、寛簿之末江記集可有、評論委曲、肆赦義略にあり可

小肆正期条目

一世子始謁 一庶子義家江移徒 一庶女婚姻

右三箇条

右之節、可行小肆事

一御即位 一天皇御元服 一將軍宣下

一御転任 一若君様御誕生 一若君様御弘メ

一御養君被 仰出 一東照君御神忌 一御歴代御法会

一日光御宮參

右之節、公儀にてハ大赦、又者当座之御赦被行候得共、微臣之家政に 君上之大儀を唱事ハ僭踰之義にて如何布、乍然其実に依れハ、弊邑も則是 君上之有蒼頭も、又これ 君上之民なれハ、竊に其大義を唱るといへり、敢て無害に似たれハ、聊其慶を奉るのみに、謹而可行小肆事

藩中寛簿式例

此度大阪御城代被蒙  
仰候ニ付、大肆伺書

此度大阪御城代被蒙 仰候御祝儀ニ付、大肆伺候者、左之  
通

寛政四子年七月廿九日

入卒 御廐小頭 大嶋仁兵衛

其方事、御馬飼料之内、就中御馬具其外役用として請取置候御  
道具并御買上馬之代料、且又中間給金等迄茂掠取、吟味之節押  
隠、再応余儀之上令白状、不屈至極ニ候、重科ニ付、死罪ニ相  
極候得共、当年重き 御年回ニ付、御法事并御祝儀茂有之候  
事故、別段之以 御慈悲、頭を剃、追払申付候、江戸・長崎・  
九州致徘徊間敷候

本文仁兵衛義、馬渡鳴駒捕之節、受取候大豆・粉糠等残之分  
取置、又ハ為壳払、中間昼扶持残り、或ハ腹帯ニ用候残苧并  
沓卷木綿等宿ニ差置拾ひ候、羅紗・馬氈、且釣座・灸治炭請  
取、残り取置、古桶を自分水風呂桶ニ為繕、有合之行燈御廐  
江差出、新ニ受取候行燈其身ニ相用、中間預り残、或者給米  
手形代不足ニ相渡、残り者手前ニ差置、御買上御高・御払高、

代錢相違之義申立、都合七ニ残四拾余掠取、其外御家中高  
払頼之節も、不正之取計有之候ニ付、本文之通被 仰付候、  
尤、役用ニ付、不正取計数多有之候得共、箇条に不記、右者  
荒増之趣意相認申候

「本罪有、有之ニ付、難成赦宥」 (朱筆)

寛政六寅年十月十一日

寄合 香村善之丞

父武右衛門、去冬以来三ヶ条之願存立、年来之 御高恩致  
忘却、剩他組江も触、徒党相企、重畳不屈至極候、依之組中  
引廻之上、斬罪被 仰付候、其方幾も吃度可被 仰付候得共、  
御慈悲を以大小押、追放被 仰付、唐津者勿論長崎致徘徊間  
布候

本文、善之丞義、父武右衛門不輕願相企、死罪被 仰付候  
ニ付、此もの者本文之通被 仰付候

「赦宥」 (朱筆)

享和三亥年九月十九日

御歩士 龜山岩之丞

其方事、幼年之節不所行之儀有之候得共、 御家久敷者ゆへ  
各別之以 御憐愍、其儘被 召仕候処、此度於 御旅中、又  
候不埒之節 御聴ニ達、重々不屈至極 思召候、急度御仕置

可被 仰付候得共、其砌仲ケ間共穩之取計を以、内分相歎候  
訳も候付、尚以 御慈悲永之御暇被下候、御領分ハ勿論、江  
戸・長崎致徘徊間布候

本文、岩之丞義、寛政六寅年未々浪人之頃、町方江出、菓  
子杯相調代錢不払風聞有之候ニ付、及内沙汰候義有之候、  
尚又 御旅中ニ而之不埒者、仲ケ間之懷中物、内実者盜取

候一条与相聞申候

〔年数未滿〕  
(朱筆)

右三人之者、御赦宥相伺候、以上

文政八乙酉年

十一月

一右者、帳面に仕立、人数ハ其期に臨て可有差同事

一書法ハ老人之分之咎書・訳書認畢而、次之者名前・肩書之年号与

之間、二桁明可認事

一赦宥有無之義、評決之上朱書之通可認事

一中肆寛簿、都而前件同事

市在寛簿式

此度何之義ニ付、大肆伺書

此度何之儀ニ付、大肆相伺候者左之通

年号支干年月日

何之誰掛リ

何村か  
町か

宗旨 住持か  
何寺 所化か

〔何年〕  
(朱筆)

名

科書

年号支干年月日

元何之誰懸リ  
当時何之誰懸リ

何町か  
村か

町人屋号か  
百姓か

誰忰・下人等夫々肩書

〔何年〕  
(朱筆)

名

科書

年号支干年月日

掛リ付

郡奉行



科書  
「何年」  
(朱筆)

何町か  
何社  
社主か  
社人か  
名

右何人之者、此度赦宥可被 仰付候哉、奉伺候

年号支干年月日

郡奉行名

一右者帳面に仕立、人数ハ其期に臨て可有差同事

一書法ハ一人分之科書認畢而、次之者肩書・年号与之間、二桁明可

認事

一名前順ハ、年数之新古に從て、古を先に出し、新しき盤後に可認

事

一中肆・小肆寛簿書法、其外都而前件同様、唯願出者之外ハ、頭書

之年数無之事

一右伺書、赦宥有無、評決之上、夫々致朱書可為置事

令書式

郡奉行江

遠島歟  
永窄歟  
赦宥

掛リ付  
肩書  
名

重中輕歟追放赦宥

所払・居村居町払赦宥

右何人之者、此度何之義ニ付赦宥被 仰付候間、可被申渡候、死  
亡之者ハ、其親類・身寄之者等江、可被申渡候

支干何月

掛リ付  
肩書  
名  
掛リ付  
肩書  
名

一右者半切に認可相渡事

一名前順、肩書等ハ都而伺書之通ニ而、難成分年数未滿之分ハ相除、

赦宥之分計如前件可認事

一頭書之科ハ、其者に從て有差同事

司郡告辞式

赦宥申渡候儀申上候書付  
郡奉行

遠島歟永窄歟赦宥

「此誰儀、年月日病死仕候」  
(朱筆)

重中輕追放赦宥

掛リ付  
肩書  
名

掛リ付  
肩書  
名

所払・居村居町払赦宥

掛リ付  
肩書  
名

「此誰儀、年月日病死仕候、或出奔仕、住所相知不申候」

(朱筆)

右之者共義、此度為何之義赦宥被 仰付候間申渡、死亡之者ハ、

其親類・身寄之者江可申渡旨、御下知之趣承知仕候、右之内、生

死等相糺、此節住所相知居候分ハ、当人呼出、住所不相知并死亡

之者ハ、親類・身寄之者等呼出、右何之義ニ付赦宥被 仰付候旨、

当幾日申渡候処、一統難有奉存候旨申之候、此段申上候、以上

年号支干月日

郡奉行名

一 右半切ニ認可差出事

一 名前順等、下知書之通可認事

一 病死并出奔之者ハ、前件之通、朱ニ而出入可申事

藩中大肆罪銘

一 其科之次第者不顕候与も、一躰之始末土道不相立、暇又者追放等

申付候類

一 輕き盗并光掬いたし候類

一 忘命之者

一 十五歳以上にて呼出無之内、親・兄等ニ隨ひ致出奔候処、不埒之

筋も相聞へ候もの

一 永蟄居・永差戻之もの

右者、五十年以上之分、其者之身持格別堅固ニ候者、可赦宥事

一同罪再犯之者

一 趣意不宜、手疵負ひ、暇又者追放等ニ相成候もの

一 暇又者追放等ニ相成候後、構場所江立入候もの

一 夫無之女与致奸通候もの

右者、三十年以上之分、其者之身持格別堅固ニ候者、可赦宥事

一 不得止事にて、不慈・不義・不貞・不順之姿ニ相成候もの

一 関所・番所ニ而、勤方不恙ニ付、暇等ニ相成候番人

一 親等之為め、一旦盗・悪事いたし候もの

一 悪党者と乍存宿いたし候もの

一 博奕打候者

右者、二十五年以上之分、其者之身持格別堅固ニ候者、可赦

宥事

一 土道相立候得共、不輕科ニ付、暇遣候類

一 百姓・町人を及殺害、又者片輪ニいたし候ニ付、遠島ニも可相成

科之もの

一 一旦蟄居差戻等ニ申付候後、再応不埒有之同様之咎申付候もの

但、永蟄居・永差戻ニ無之分也

一 慎隠居申付候類

但、差免候迄ニ而難成再勤候事

一 奸通等其外不屈之筋ニ而致出奔候女

右者、二十年以上之分、其者之身持格別堅固に候者可赦宥事

一 不期罪銘之内、願出候者并本人赦宥ニ相成候分  
右者、不拘年数可赦宥事

一 一時之心得違にて忘命いたし候後、格段之一芸に達候もの

右之類、大肆之節、可赦宥藩中之分也

但、手跡并馬術ハ、一芸に不相立候事

一切米扶持方召放候もの

藩中中肆罪銘

但、其罪を赦候迄ニて難成再勤候事

一 父之科によつて、暇又者追放・遠嶋等申付候もの

一 大肆罪銘之内、二十年以上之分相除、其以下之分  
一 不期罪銘之内、願出候者并本人赦宥ニ相成候分

右者、十五年以上之分、其者之身持格別堅固ニ候者、可赦宥事

右何も往断之者ニ而、当座之肆赦者無之事

事

一 一己之不慎より、蟄居・又者親・兄等江差戻候もの

右箇条者

一 無謂致出奔候女

靈神神忌 歴世顕考法会中肆之節、可赦宥、藩中之分也

一 親・兄并親類否、一旦勘当・久離を受候後、年数相立、勘当・久

離差免され候もの

藩中不期罪銘

但、格段之一芸に達候者、被免候年より之年数

一 当人之科ニ而、遠慮・追放等申付、十五歳迄親類願之内、出家願

一 一芸之規矩前件同事

出候分、世上之害ニ不相成もの

右者、七年以上之分、其者之身持格別堅固ニ候者、可赦宥事

一 父の科によつて、遠島・追放等申付、十五歳迄親類願之内、出家願出候もの

一 十五歳以下、又者呼出無之内、親・兄等ニ隨ひ致出奔候外、子細

一 本人赦宥に相成候引合之分

も不相聞もの

右者、不拘年数願出候節、願之通出家申付、并本人赦に相成候節可赦宥事

右者、五年以上其者之身持格別堅固ニ候者、可赦宥事

右箇条者、肆赦正期之外、臨時可赦宥藩中之分也

## 藩中不可罪銘

一 不忠・不孝之者

一 押願之頭取并差統之者

一 趣意惡敷候而、傍輩等疵付候者

一 養母・養娘・兄弟等、密通いたし候もの

一 密夫いたし候もの

一 密通之女を誘出し候もの

一 忍入之盗いたし候もの

一 一事を巧み、光棍いたし候もの

一 暇又者追放、或者勘当・久離等、一旦赦宥に相成候後、又候同様

一 之仕義ニ被行候者

一 一代限之新参者

但、年数相立、芸術等を以、別段抱入之義ハ不苦事

右之類、大肆・中肆之節、其外共永々不可赦宥藩中之分也

## 市在大肆罪銘

一 主・親江対し、諫争之類、其外無拋非礼・不法之姿に相成候者

一 不得止事にて、不慈・不義・不貞・不順之姿に相成候もの

一 附火いたし遠鳴に相成候もの

一 鋸其外刃物類、又ハ火氣など窄内江入れ遣候迄にて、窄拔も無之

一 節之窄番人

一 窄拔の手段ニも不相成候軽き品を取次遣候窄番人

## 右之類、二十五年以上可赦宥事

一 同罪再犯之もの

一 主人方に居ながら盗いたし、其当座心底を改め、有躰申立、主人方損失不掛もの

一 盗・光棍いたし候もの

一 固辞明ヶ候迄ニて、不立入物を不取得もの

一 一寺住職之身分ニ而、盗・光棍等いたし候僧

但、赦宥に相成候而も、一生住職者勿論、役僧等ニも難成候事

一 盗かたり等ニ而仕置ニ成り候後、盗物与乍存取扱候もの

一 構場所江立入、遠島・重追放以下之悪事いたし候もの

一 三島派・不受不施類之宗法を持候者に携候敷、又者人ニ勧め候義

ニ携り、格別品軽きもの

一 関所を忍び通り候者

一 城門を破り候もの有之節之番人

一 関所破り有之節之番人

一 窄番ニ而窄拔を不存迄之もの

一 一生之内、押込・他之害ニ不相成もの

一 永ク預ヶ、他之害ニ不相成もの

右二十年以上可赦宥事

- 一家蔵江忍入候盗人に、軽き盗物持運び、配分取候もの
- 一同断盗物与乍存、質ニ取り、年来陰物等買候もの
- 一抜荷物取扱候もの

一悪党者与乍存宿いたし候もの

右十五年以上可赦宥事

一相手より不法を仕懸ケ、無是非及刃傷、人を殺候もの

一当座之出来心にて、かたり又者手元に有之品を盗候もの

一主・親等の為メ、一旦盗・悪事いたし候もの

一軽き盗いたし候もの

一牢屋焼失之節、放遣し立帰、軽追放以下に相成候もの

一父之科によつて、遠島申付候者并願中之もの

右十年以上可赦宥事

一怪我にて人を殺候もの

一盗、又盤外悪事にて、所弘・追放等ニ相成候後、構場所江立入

候計にて候者、何ケ度立入候与も、外悪事無之もの

一盗・光棍之外、軽き悪事いたし候もの

一軽き御法度并軽き領法を背候もの

一父之科によつて追放等申付候者、并預中之もの

右七年以上可赦宥事

一三笠附・取退無尽・博奕打候もの

右六年以上可赦宥事

一当人之科ニ而遠島・追放等申付、十五歳迄親類江預中之もの

一遠嶋申渡出帆迄在牢之内、死失いたし候もの世上之害ニ不相成分

一死失ニ付、仕置之品一件之者江申渡候もの、世上之害ニ不相成分

右年数等、前箇条等見合可赦宥事

一都而本人赦宥ニ相成候引合之分

一市在不期罪銘之内、願出候もの

右考、不拘年数可赦宥事

右之類、大肆之節可赦宥在町之分也

市中肆罪銘

一同罪再犯之もの

一怪我ニ而人を殺候もの

一相手不法ニ付、無是非及刃傷、人を殺し、又者疵付候もの

一主人方に居ながら盗いたし、其当座心底を改め、有躰申立、主人

方損金不懸、助命又者仕置宥免願候もの

(右条上部に朱筆) 此ケ条ハ、中肆之時赦宥願出候分也、過去之助命等之者ニハ無之

一取逃引負拾両以上・以下共、并使者ニ而壹両以上・以下共取逃候

処、主人ハ助命又者仕置宥免願候もの

〔右条上部に朱筆〕  
「同前」

一 忍入五ヶ度以下之盜賊

一家蔵江忍入候盜人に被頼、盜物持運び、配分取候もの

但、本人數に相成候分計赦宥之事

一 盜かたりニ付、入墨・敲并重敲等ニ可相成分

一 当座之出来心にて、光棍又盤手元に有之品を取候もの

一 同断、縦ひづりを破り、死罪可相成ものニ而も、三度以下再犯等

無之分

一 輕き盜いたし候もの

一 主・親等の為メ、一旦盜・惡事いたし候もの

一 一寺住職ニ而盜いたし候僧

但、大肆罪銘同事

一 固辞明而已にて不立入、物を不取得候もの

一 盜かたり等ニ而、仕置に成り候後、盜物与乍存取扱候もの

一 同断、盜物与不存取扱候もの

一 盜、又盤外惡事にても、所払・追放等ニ相成候後、構場所へ立入

候計にて候者、何ヶ度立入候与も、外惡事無之もの

一 同断之もの構場所にて、遠嶋・重追放以下之惡事いたし候もの

一 盜物・光棍物、其外引合之内、質ニ取、又者買取候もの

但、被盜候者損失無之分計

一 盜物与乍存質ニ取、年来陰物等買候もの

但、本人赦に相成候分計赦宥之事

一 惡党者与乍存宿いたし候もの

但、同断

一 抜荷取扱候もの

一 関所を忍び通り候もの

一 盜之外、輕き惡事いたし候もの

一 輕き御法度并輕き領法を破り候もの

一 三笠附・取退無尽并博奕打候もの

一 当人之科にて遠島・追放等申付、十五歳迄親類江可預もの

但、前之ヶ条ニ見合、可赦宥事

一 都而本人赦ニ相成候引合之分

一 市在不期罪銘之内、願出候もの

右之類、中肆之節可赦宥在町之分也、死罪以上に可相成分、督責

中赦宥申付候時、死罪者一等を宥メ、遠島・追放等ニ可申付事

市在小肆罪銘

一 中肆罪銘之内、中追放以下世上之害ニ不相成分

一 盜・光棍ニ而、入墨并敲・重敲に可相成分

但、質ニ取り候分、過料償等宥候而ハ、被盜主損失ニ相成候

間、其分引合も有之時ハ、本人も無赦宥事

一 博奕ニ而重敲并敲ニ可相成分

一 同断引合之分

一 本人赦宥に相成候引合之分

一市在不期罪銘之内、願出候者  
右之類、小肆之節可赦宥在町之分也

市在不期罪銘

一当人之科<sup>二</sup>而中追放申付、十五歳迄親類預之内、出家願出、世上之害に不相成もの

一父之科に依て遠嶋・追放等申付、拾五歳迄親類預之内、出家願出候もの

但、右二ヶ条とも不拘年数願出候節、願之通出家可申付事

一人殺に無紛相聞候迄<sup>二</sup>而、難決遠嶋<sup>二</sup>成候もの

但、人殺之本人出候者、全無罪之者<sup>二</sup>付、其節可赦宥、外悪事有之ハ、其科に可申付年数相立候事<sup>二</sup>候者、不及咎之沙汰事

右箇条者、肆赦正期之外、臨時可赦宥在町之分也

市在不期罪銘

一逆罪之者

一不忠・不孝并主親江対し非礼・不法および候もの

一不慈・不義・不貞・不順之類

一邪曲<sup>二</sup>而人を殺候もの

一人殺<sup>二</sup>決し、不致白状もの

一人殺に無紛相聞候迄<sup>二</sup>而、難決遠嶋<sup>二</sup>成候もの

一相手を片輪<sup>二</sup>いたし、遠島<sup>二</sup>相成候もの  
一附火いたし候もの

一追剝いたし候もの

一追落いたし候もの

一堀を乗越、立入物を不取得候もの

一固辞明立入、物を不取得候もの

但、右二ヶ条、物を取得候得者、勿論難成赦宥事

一風与之出来心<sup>二</sup>而、メリを破り候分、三度以上再犯之もの

一盗<sup>二</sup>而仕置に相成候後、光棍いたし候もの

一光棍<sup>二</sup>而仕置<sup>二</sup>相成候後、盗いたし候もの

一取逃引負拾両以上、并使先取逃<sup>二</sup>而以上之分、主人より相願、助命に相成候もの

但、助命<sup>二</sup>而赦宥之廉相濟候間、再赦無之事

一主人方之もの盗取、たとへ追<sup>二</sup>而逃去候<sup>二</sup>与も、不及露頭程過候分ハ、

取逃与者難申、其外盗いたし不逃去罷在候分

但、主人方助命願候とも難成事

一盗、又者外悪事<sup>二</sup>而も、所払・追放等<sup>二</sup>相成候後、構場所江主人あ

はれ候歟、盗等いたし候もの

一同断構場所<sup>二</sup>而、遠嶋・重追放以上之悪事いたし候もの

一旧悪<sup>二</sup>而仕置に相成候もの

但、忍入盗賊之外之分也

一城門を破り候類

一 関所を破り候類

一 徒党・強訴・頭取并差統之もの

一 徒党・強訴を企、人之害ニ相成候もの

一 徒党いたし、人家江押込候もの

一 役義ニ付、私欲・押領いたし候もの

一 鋸、其外刃物類貸遣候敷、火気など入れ遣し、右品ニ而牢拔有之節之牢番人

一 重き御法度并重き領法を背き候もの

一 擬せ金銀を拵候もの

一 毒薬売候もの

一 女犯之僧

一 三島派・不受不施類之宗法を持し、又者人ニ勧め候もの

一 死罪可申付処、赦免ニ而遠嶋・追放等申付候もの

一 遠嶋ニ成、又候悪事いたし候もの

一 一旦赦宥に相成、又候悪事いたし候もの

一 当人之科ニ而中追放以下之咎申付、拾五歳迄親類預之内、願出候ニ付出家申付候もの

一 同断預中致出奔候もの

一 悪事有之、永尋申付置候もの

一 牢屋焼失之節、放遣し不立帰もの

一 遠嶋申渡出帆迄、在牢之内死失いたし候処、世上之害に可相成分

一 死失ニ付、仕置之品一件之者江申渡候もの、世上之害ニ可相成分

一 點計にて、身分不動者

一 無宿者

右者永々不可赦宥事

右之類、大・中・小肆之節共、永々不可赦宥在町之分也

右赦法、今度相定候に付、以後正期之節、此律令に当比し、可行赦宥事

宥事

文政九丙戌年五月

文政十一子年

〔宋筆〕目付方隠密取調方差別之儀ニ付書付

目付方隠密穿鑿のこと、内外之善悪・邪正・巨細に取調にハ勿論なれとも、そのうちにも緩急・深淺の差略盤有度事ニて、金鉄といへとも常にして止む事なければ、性鈍りて用に立かたし、まして人情盤活物の長なれば、天生の赤心盤内外善悪の等差なしといへとも、身体の動止・氣稟の厚薄によりて、おのつから内外の差別なきこと能はず、然るを、是等之人を無体に規則に従ハしめむとすれば、却而元の氣鬱蒸して舒る時なし、後ハ必ず害を生ずることあり、易に尺蠖・龍蛇の譬論もあり、上世の哲人・俊士も、聖人の教には違ふ処も多かるへし、況や下世の凡夫、内外公然の行盤迎もありかたき事なるを、此方の無理なる定木にあわせたりとも、詮なき事なり、夫より盤弛ふる処ハ十分に弛メテ、張時ハ



いかにも丈夫に張通さするそ第一なるへし、表三頭たる処、法にそむかす、各其分の勤嚴重なれハ、差当咎る処もなし、然ると閑散無為の節々まで規矩に当て、扛揚すればイはなりかたし、是等の味を斟酌して、内外の差別、又盤事の利害によりて、隱密取調も深浅すへし、先さしあたり、心付たるヶ条左にするす

一前件にも認置ことく、政事の扛揚盤、表向頭然たる処第一にあれば、私室燕居の動止まで穿鑿して盤イもならず、殊更役向勤るものともは、精勤に緩き処もなけれハ、私室燕居の時ハ、夫々適意の養話もいたし、身体壮健になすを第一の心懸なるへけれハ、重役かつは要路の役人といへとも、銘々屋敷門内の義、私室の動止は一家親族等の間のことにて、適意の保考するしからさる事なれば、穿鑿に及はさるなり

一一家限の事といへとも、悪事の申合などいたす輩は、深く穿鑿あるへき事

一外々にあらはるゝ事にては、身上に応し、花見・遊山かつは猟漁の類者、一切憚に及はず、場所によりてハ、寺社あるひハ村長などの宅をかり受、破子したしめなどいたすとも、相冠つゝの事なれば苦しからず、町家酒店等へ越て遊興いたすとは、事かはりたるなり、差別あるへし

一家中も追々誠度などにて困窮弥増すらへハ、銘々の心懸にて内職いたすへし、元来内職の儀なれば、買宅奕宿ならば格別、其外役向不似合、身柄不相応等の沙汰者あるましき事也、銘々得意の業

をもつて取続き、無事勤る社第一なれハ、内職の可否は取捨に及はず

一酒食・会合の事、一家且者親受、且は同輩等、寄合とも奢儀かましき事、猥なる事なく、分限相応に鬱敷するやは、申立る程の事もあるまし、詩頭連俳の会合も、各々のわさによりて、余の悪き道へも入らぬ姿なれ者、是ら者風俗の一助なるへし

一不孝・不貞・不順の類は、一家限のことにて、たとひ紛し風説あるとも、親族より出訴・出願いたすか、人命にもかゝるへきか、劔戦の沙汰にも及ひたら者格別、余者親族にて取事の筋なれば、穿鑿に及はず

一密夫・奸通の類、これまた事実相違なきに於てハ、貞主・親・本夫、且者親族被捨置筋にあらされは、穿鑿及さず、前件同様のことにて、発露いたし不始末のことあら者、双方親族迄も、夫々職科に行ふへし

一都而借財の多少、返済の即無、且者節季切、外時々の払方可否者、元来相冠つゝの事なれば、穿鑿及はず、毎暮藩中の払方分合詞盤、一体の盛衰を存る為ゆへ、是迄の通り調へし

一小普請の輩者、当絶も差略あれば、万事勤仕の並には取扱も致されざる筋にて、都而ゆるふすへき事なれ盤、前件のこと共者勿論、あらはの事迎も、大法に拘はらず、外ら難儀にならざる義盤、わけて勘弁あるへし

一呼出前の浪人者ハ、小普請ニ準して差略あるへし、二男・三男盤、

小普請同様の者也

一 寄合のものも小普請に準し、斟酌あるへし

一 見附宿・舞坂宿者、領分外の土地なれば、人目を忍び罷越やからは、沙汰及はず、犯行又ハ一宿以上の分ハ、厳密穿鑿すへし

一 都而風俗も前件に見合、緩急の差別厚に斟酌すへし、又者内事の風説といふとも、品によりて者聞込のまゝ申出、取捨を待へし

一 美事者内外の差別なく、委しく穿鑿あるへし、又者人物の調申付の節、一通者前件中的ものも差略いたし、取調ふへし、深く調と申付の時ハ、前件の差別なくことごとく穿鑿あるへし

右者、是迄之隱密取調の事、内外緩急の差別もなく、一様の穿鑿にて申出るを、随分差略いたし取計なれとも、役筋にて度々申出候ては止越得ず沙汰いたす節もあり、去ながら嚴重のことくも成かたたく何歟と可也の仕置申付、夫にても事はすむへけれど、嚴科も軽くすみては、却而準繩者立かたく、下にて盤法を觀の類にも成てしらす、かつ者銘もイむへき処もなき様成行者、歎すへきこと故、兼々心付居る品をケ条にいたし認たる也、条前にも此類は多かるへし、心付もあらハ逐一申出へし、又此ケ条の外盤、多分発頭の事なれ者、是迄の通、猶更たゆみなく穿鑿すへし、また前件の通心得て、内外緩急の差別遽に立る上者、藩中にも種々の開評もいたすへけれど、仕公の輩は猥に政事誹謗することはあるましきことにて、全く政道をしさるものゝ舌頭盤用ひかたし、しかるとて絶て風評等用ひさるにてあらねと、多く風評によりての扛揚は、元來政理なきゆへなれ

者、幃中の規矩を専にまもりおしておこなへ者、末々人眼を開く基本ともなるへき事也

七月

〔朱筆〕御規定書

目録

〔天保四巳年十一月〕〔朱筆〕

一 御城代御規格

〔同五年十月〕〔朱筆〕

一 老共初忌御免後遠慮有無之 御書付

〔同八酉年九月〕〔朱筆〕

一 老衰三付、役儀御番方等頼候者江申渡候御定

〔同九戌年九月〕〔朱筆〕

一 御領分江入込候無宿者御仕置御定

〔同〕〔朱筆〕

一 無宿者御仕置、老共手限之 御書付

〔同〕〔朱筆〕

一 御領分江入込候御他領無宿御仕置御定

〔同十亥年三月〕

一 御領分江入込候元御領分者無宿御仕置御定

〔同十年〕〔朱筆〕

一 文学稽古人御賞之儀御定

〔同十一年正月〕  
〔宋筆〕

一 御仕置除日御定

〔同二月〕  
〔宋筆〕

一 江戸・浜松引越之節、御内証御心附御定

〔同六月〕  
〔宋筆〕

一 死罪以上御仕置伺御定

〔同八月〕  
〔宋筆〕

一 御貸具足御定

〔同十月〕  
〔宋筆〕

一 御家老・年寄共、其外差扣御定

〔同十三寅年九月〕  
〔宋筆〕

一 山川萬松寺、橋場妙高寺江、寺領御寄附御定

〔弘化二己年二月〕  
〔宋筆〕

一 鳴物御停止中稽古事等大概

〔天保四癸巳年十月〕  
〔宋筆〕

〔宋筆〕  
〔○〕城代規格

一 老共順席之事

一 役名順之儀者、在江戸之内、老共上座有之候者、年寄・城代と申

順三可立、老共上座無之節者、城代・年寄与申順三可立事

一 政事向江者不拘事

城代

一 名代并通行出役等必定、老共可勤廉差支有之節、其時限申達之上、  
勤向可有之事

一 家中之者、公私共不及廻勤候事

一 殿中席之儀、大広間・式之間三可在之事

一 老共へ用談有之節者、大広間・二之間江老共呼出し可申談事

一 年始・盃酌・玄猪・年餅等之節、老共と順席三可進事

一 年始・五節句・月並參賀等、直礼之節、家老・年寄・用人一列三  
相進候間、其後独礼可有之事

一 料理又ハ菓酒等遣候節、老共へ順座之事

一 但、御鷹之雁技三者不及參殿候事

一 在府中、年頭・五節句・暑寒・歳暮并年始・江戸より初便到来、

一同參殿之節、且吉凶三付、參殿之節ハ、大広間・二之間三而、

老共謁可申事

一 在府中・年始・暑寒等、老共並之通可致呈書事

一 七月棚拜礼、老共順席之事

一 但、御送之節、老共向江可仕事

一 出火之節、先不及參殿候、尤、城内歟、又ハ城外三而も住居向江

風筋不宜節者、見計可致參殿事

一 講談之節、不及參殿事

一 奉射并火術等之節、見物勝手次第出座候者、前以月番老三可案内

候、見物所別席三可仕構事

一 但、平常之文武稽古見分等江者、不及出座候、何之玆敷仕義

も候て、勝手次第可致出座候、前以可有案内事

右常体之城代、大抵如此可有之、主意有之二本松義廉之例<sup>二</sup>而申付候仁者、別格之事、

前件城代規格十六ヶ条、此度相定候、乍併、条外之小事者、臨期評定次第候、大義といへとも、簡条ニ洩候分者、評定之趣意申聞可附録事

天保四癸巳年十月

澤瀉御印

「天保五年十月」<sup>(朱筆)</sup>

「○」老共初忌差免後、遠慮有無之事書付

老共・用人共、忌差免出勤後、年始・酌酌・亥猪等、是迄遠慮いたし候哉<sup>二</sup>候得共、忌差免勤之上<sup>八</sup>、以後不及遠慮候、寺社へ名代并廟所目拜等<sup>八</sup>、可致遠慮候事

一諸士茂右同前之事

午十月

「天保八酉年九月」<sup>(朱筆)</sup>

「○」老衰<sup>二</sup>付、役儀番方等頼候者へ申渡方定

八月廿三日、二本勘右衛門へ申渡方、左之通

老衰<sup>二</sup>付、願之儀も有之間、小普請入被 仰付、年寄以上相勤候付、外領物被 仰付之

右<sup>二</sup>而者、趣意難通候間、以後役人并番方とも左之通可申渡候

老衰<sup>二</sup>付、願之通<sup>御</sup>役御免・小普請入被 仰付、年寄候迄相勤

候<sup>二</sup>付、拜領物被 仰付之

但、寄合等<sup>二</sup>相れとも同様之事

前書之通、可定置候事

酉九月

「天保九戌年九月」<sup>(朱筆)</sup>

「○」領分江入込候無宿者仕置定

一領分江入込候迄之者  
一外惡事無之者

敲

一領分江入込致止宿候者  
一外惡事無之候者

重敲

一手元之盗いたし候者

黥・敲

一家藏江忍入候者  
一物不取得と茂

黥・重敲

一<sup>レ</sup>り有之処、固辞明候者  
一物不取得候と茂

死罪

右之通、相心得仕置可伺事

天保九戌

九月

「天保九戌年九月」<sup>(朱筆)</sup>

「○」無宿者仕置、老共手限之儀書付

此度領分江入込候無宿者仕置相定候<sup>二</sup>付、以後郡奉行<sup>レ</sup>吟味詰仕

置伺候節、科条之外惡事無之分、入墨・重敲迄者、老共手限三而  
及差図、其訳吟味書へ致書書便之節、可差越候、死罪以上ハ伺可  
申事

戊九月

〔天保九戌年九月〕〔朱筆〕

〔朱筆〕領分江入込候他領無宿仕置定

一 領分江入込候迄之者  
一 外惡事無之者

敲

一 領分江入込、致止宿候者  
一 外惡事無之候ハ、

重敲

一 手元之盜いたし候者

黥・敲

一 家藏江忍入候者  
一 物不取得候とも

黥・重敲

一 有り有之処、固辞明候者  
一 物不取得候とも

死罪

右之通、相心得仕置可伺事

天保九戌

九月

〔天保十亥年三月〕〔朱筆〕

〔朱筆〕領分江入込候元領分者之無宿仕置定書遣候ニ付書付

元領分者之無宿、領分江入込候時、仕置之儀別紙之通相定候間、  
右之心得ニ而可伺旨、郡奉行被申達伺候ハ、外引合も無之類ハ、

老共手限置致差図、吟味書へ朱書入便次第可差越事

亥三月

領分江入込候元領分者之無宿仕置定

一 領分江入込候迄之者  
一 外惡事無之候ハ、

急度叱り

一 領分江入込致止宿候者  
一 外惡事無入候ハ、

三十日手鎖

一 手元之盜いたし候もの

敲

一 家藏江忍入候者  
一 物不取得候ハ、

重敲

一 有り有之所、固辞明候者  
一 物不取得候ハ、

黥・重敲

右之通相心得仕置可伺候、落着後、元居村請之代官江可引渡事

天保十亥

三月

〔天保十亥年十月〕〔朱筆〕

亥十月

〔朱筆〕文学稽古人賞之儀、相定候書付

文武稽古人賞之儀、武術ハ目錄を授候得者、吸物・酒遣候、名義  
ニ而士分ハ金百疋、輕輩ハ銀十五匁、免許授候得者、料理遣候名  
目ニ而、士分ハ金貳百疋、輕輩ハ銀三拾匁遣候事ニ相極居候得共、  
文学之方ハ、未定候付、以後之処

一席上弁書初無滞相仕舞候ハ、甲乙科之外ニ、吸物・酒遣候  
 名目ニ而、金百疋、輕輩ハ銀十五匁之賞  
 一無點之書籍読得候程之学力ニ相成候者、  
 料理之名目ニ而金貳百疋、輕輩者銀三拾匁之賞  
 右之通相定取計可申事

亥  
 十月

「天保十亥年十月」(朱筆)

〔○〕(朱筆)仕置除日更相改候書付

仕置除日当時之処、不都合之儀も相見候間、此度更ニ相改、左之  
 通定可申候

一毎月 朔日 十五日

但、日之始、月之盈を慎故也

一公儀御日柄

毎月八日 十日 十二日 十四日

十七日 廿日 廿四日 晦日

一自家齋日

三月晦日

五月廿九日

七月十日

同月廿九日

右之趣、郡奉行書達事  
 十二月廿七日

亥  
 十月

「天保十一庚子年二月」(朱筆)

〔○〕(朱筆)江戸・浜松引越之節、御内証御心附金之事

御家老  
 年寄

一金七拾兩

御用人

一金四拾兩

但、同格者、御物奉行ニ准ス

右之通、以後御定有之候

天保十一年 庚子二月

「天保十一子年六月」(朱筆)

〔○〕(朱筆)死罪以上御仕置伺規定

一郡奉行共吟味いたし、吟味書差出候上、江戸表 江戸御仕置伺、郡奉

行共加名半切、書判・連印ニ而伺候事

地漉半切

案文

先達而入窄申付置候何方誰致吟味候ニ付、吟味書進之候、  
被相伺可致申越候、以上

月日

郡奉行共加名  
書判

年寄共

連名

御家老共

書判

老共連名殿

封上殿付連名

裏封之字

但、御右筆認

一御下知返書

地漉半切

案文

先達而入窄被申付置候何方誰、吟味書被差越、御仕置之儀  
被相伺候、則書付入、御覽相伺候処、何々之始末不届ニ  
付、死罪被申付候様ニとの 御意ニ候、以上

月日

老共連名  
書判

御家老共  
連名殿

年寄共

郡奉行共加名殿

封上殿付連名

裏封之字

一御請

地漉半切

案文

入窄申付候何方誰、何々之始末不届ニ付、死罪可申付旨、

御意之由奉從其意候、去何日申付候、以上

月日

郡奉行加名  
書判

年寄共

連名

御家老共

書判

老共連名殿

封上殿付連名

裏封之字

但、御右筆認

一吟味書上書

御年寄中

御家老共  
年寄共

一 御下知返書到来之上、郡奉行へ申達候事  
 一 御仕置取行之節、立合前横目老人郡奉行申立候付、申達候事  
 一 御仕置相済、飛脚次第江戸表江連状差出候事  
 子六月

一 足輕具足、組々江相渡、并小役人共も相渡候事  
 一 背割具足、御旗之者へ相渡候事  
 右之通、以後御定有之候  
 天保十一年庚子八月

「天保十一年十月」 (朱筆)

「天保十一年十月」 (朱筆)

〔朱筆〕御貸具足

〔朱筆〕老共・用人共差扣伺定

- 一 騎馬具足 五拾八領
  - 一 朱具足 八拾領
  - 一 疊具足 四拾領
  - 一 御歩士具足 六拾貳領
  - 一 歩横目具足 貳拾領
  - 一 足輕具足 六百三拾九領
  - 一 背割具足 四拾貳領
- 定

老共差扣伺候義、近親内咎等ニ付而之事歟、其身表向蒙沙汰候節義ハ、是迄之通差扣之儀、歩頭・小納戸之内を以、月番江可相伺候、当番帳江茂記之、兩地連状江も可申越、目付江も心得ニ可申奉候

一 騎馬具足ハ、給人以下ニ而騎馬役相勤候輩へ可相渡候、并他所分御加勢之騎士江可相渡候事  
 一 朱具足、御中小姓江相渡候事

一 勤向ニ付、一時之不甚、又者差凶違等不調法之筋ニも到り候者、參殿中当人より口上を以差扣之儀、月番江可伺候、月番ハ、側用人歟小納戸を以達聞、即刻不及差扣与、取次之者申出次第、当人江可申達、是ハ銘々手当日記等へ認候迄ニ而、当番帳・当地連状等へ不及記、目付江例ニも不及候、若留守等ニ而即刻達聴候儀も兼出来候日ニ候者、不及伺、翌日・翌々日歟、都合能日、当人分伺候様可致候

但、下立御寄組頭同様之事  
 一 疊具足、臨時御用意之事  
 一 御歩士具足、御歩士へ相渡候事  
 一 歩横目具足、歩横目様相渡候事

但、不及差扣旨申達候者、廻勤等いたし候廉ニ候とも、本文当座之伺ニ者不及其儀候  
 一 兩地自筆ニ者可申越候  
 一 府邑留守年者、当人伺候節、老共限演説之上即刻不及差扣



旨申達、後便之自筆ニ其断可申越候

一用人も如前件不表立儀ハ、参殿中以同役相伺之、即刻老共分以取次達聞、可及差図候、此外如前表向ニ留記等ニ不及候

但、同前

右之通、極置可申事

天保十一子  
九月

〔朱筆〕  
○山川萬松寺・橋場妙高寺江、寺領御寄附御定

〔天保十三寅年〕  
(朱筆)

山川  
萬松寺

右者此度致参詣、熟覽候処、伽藍盡破壊候、祖廟・経界も甚疎略、圍繞之杉篁古来弘地無之、苗木而已ニ相成、山中之儀も先年参詣之節ハ、松林翁鬱之処、多分伐取、木数も遠見ニ相分候程、聊立残申候、右体故 神靈可安とも不及候、尤、伽藍大破、山林荒蕪等ハ早竟、此方分之手当不行届、住僧活計ニ窮し、山林等伐出事と相見、乍不恙、元来ハ此方之不行届候、如斯次第ニ付、祖廟も追而荒廢、且供祭も甚廉末之儀、对 神靈不敬無此上候、子孫繁栄を祈祷候ニ、日本国内之神祇数多有之候とも、祖先之神靈ニ勝候儀ハ無之候、祖廟不敬ニ相成候得者、子孫も又不栄道理ニ候、今日之栄辱一藩之上下和否を議候も、子孫有之故ニ候、左すれハ、

祖廟を崇尊いたし、祭奠無間断様、孝享を盡し候者、則子孫邨藩

之為ニ候間、以来山川之 祖廟ハ何事を差置候とも、敬信不怠

様可取計候、橋場妙高寺之 妣廟も同様之事ニ候、依子此度新ニ

山川萬松寺ニ五百石、橋場妙高寺ハ三百石為寺領可寄附候、以後、

永世無違失収納配当ヶ条之内、不動廉ニ極置、年々急度可相届候、

万一藩中減米并藩主自奉減省候、時宜といふとも、寺領ハ 祖

廟尊信之為ニ候間、減米ハ決而致間鋪候、猶此上御加恩等頂戴之

節ハ、相増候様ニも可致候

一萬松寺伽藍之儀ハ、有事之時家族避居之地ニ付、此度改造申付候、

以後年々加修復、不及頽廢様可取計候、右者永世無違失様、老共

天保十三寅年

九月

〔弘化二己年二月〕  
(朱筆)

己二月

〔朱筆〕  
○鳴物停止中稽古事等大概

公儀分普請・鳴物停止と被 命候時

江戸江

文武とも稽古事相休可申

在所ハ

槍・劍等物音いたし候稽古事は相休、文字其外物音不致

分は、稽古可致候

一同所普請ハ不苦候、鳴物ハ停止与被 命候時

江戸ハ

文武稽古事不及遠慮候

音曲ニ付候鳴物、且太鼓等も見合可申候

在所ハ

右、江戸同前之事

一御役ニ付申合、鳴物遠慮候時

江戸ハ

右前条同様

在所ハ

都而鳴物等不苦候

一自家限、鳴物遠慮候時

江戸ハ

右前条同様

在所ハ

右前条同様、都而鳴物不苦候

一自家凶事ニ付、鳴物停止申付候時

江戸在所共、触面之通

右之通、文武稽古事候、都而普請ニ付候間、甚心得候而可相差略候、江戸与在所とハ、自然輕重可有之事ニ付、以後、右之ヶ条見合可取計候事